

令和2年度 第2回倉吉市いきいき長寿社会推進協議会（要旨）

日 時：令和2年12月23日（水）13時30分

場 所：倉吉市役所 第2庁舎 303会議室

【出席者】

[協議会委員]

坂本 操氏(倉吉市社会福祉協議会)

池本 義雄氏(倉吉市民生児童委員連合協議会)

松田 裕一(倉吉市自治公民館連合会)

稲嶋 敏彦氏(倉吉市公民館連絡協議会)

前田 紀一氏(倉吉市老人クラブ連合会)

村尾 和広氏(鳥取県老人福祉施設協議会)

石川 裕子氏(鳥取県老人保健施設協会)

小南 哲氏(鳥取県社会福祉士会)

田中 恵理氏(鳥取県介護支援専門員連絡協議会中部支部)

加藤 良樹氏(マグノリア地域包括支援センター)

田中 美史氏(公募委員)

磯谷 弘子氏(公募委員)

[オブザーバー]

花田幸子氏(うつぶき地域包括支援センター) 途中退席

藤井太陽氏(倉吉中央地域包括支援センター(上灘・成徳))

長屋里美氏(明倫・小鴨地域包括支援センター)

田中直美氏(かもがわ地域包括支援センター)

[事務局]

東本和也(健康福祉部長)、山本英明(長寿社会課長)、牧田憲一(長寿社会課課長補佐兼高齢者福祉係長)、濱路由布子(長寿社会課介護保険係長)、河本千鶴栄(主任保健師)、向井聖子(専門員)、鳥飼道恵(主任)

【議事内容】

1 開 会

2 会長あいさつ

3 協議事項

(1) 第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画(案)について

(2) その他

4 その他 パブリックコメントについて・・・1月18日まで

第3回の開催時期について・・・2月第2週

5 閉 会

| | |
|--|--|
| <p>4 協議事項 (1) 第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画(案)について</p> | <p>(事務局より、追加資料・差替資料について説明)</p> <p>(事務局より、当日資料3に基づき、第4章の施策①～⑧について説明。各施策について、以下の質疑応答。)</p> |
| | <p>①高齢者が活躍できる場づくり</p> |
| <p><委員></p> | <p>伯耆しあわせの郷の利用の状況はどうか？</p> |
| <p><事務局></p> | <p>教室の利用は非常に多いです。手元に資料がないが、利用者アンケートでは60歳以上の方も非常に多くご利用いただいています。</p> |
| <p><委員></p> | <p>シルバー人材センターの加入者が減少傾向と聞く。近年は70歳代まで働けることになっているが、センターの支援はどのようにする？</p> |
| <p><事務局></p> | <p>センターへの支援は、基本的には運営支援とご理解いただきたい。国の促進する高齢者雇用も広がっているため現在の会員数は300人程度。会員の年齢層が高くなっているため、受注出来る仕事はかなり限定されてしまう。コロナ禍の影響や、近年の猛暑で草刈の仕事も受けるに受けられない状況もある。運営の側面からのバックアップとご理解いただきたい。</p> |
| | <p>②在宅生活支援の促進</p> |
| <p><委員></p> | <p>移送サービス・外出同行については、在宅介護実態調査でニーズが高かったとのことだが、このあたりで何か検討されたことは？</p> |
| <p><事務局> <会長></p> | <p>(アンケートは今年度実施したもので、それを受けての検討はできていないが、)各地区の取組みとして、小鴨地区ではアンケート調査を行い、その結果を受けて共助交通への取組みを進めておられます。その他にも、ひきこもり防止・共助交通の動きが灘手、上北条等で進められていたり、話し合いの場となるものが各地区で出来つつある状況です。</p> |
| <p><委員></p> | <p>【緊急通報システムについて その1】 緊急通報システムの現状把握、利用しやすいシステムの検討についてお聞かせいただきたい。</p> |
| <p><事務局></p> | <p>緊急通報システムの利用者は、ピーク時約400名から現在約140名まで減少しています。固定電話が必要なシステムであることと、連絡員2名(近隣の方や民生委員さん等)の確保が難しいことが要因と考えます。</p> <p>今後、人の手間を省く、担い手になられる方や家族の負担を減らすことが必要であり、民間(警備会社・電力会社等)のGPSやセンサーを使ったシステムを補助や委託等のやり方で導入することも一案と考えています。第8期計画期間中にある程度の方向性を出したいと考えます。</p> |

| | |
|-----------|---|
| <委員> | <p>【緊急通報システムについて その2】</p> <p>年1回でも、うまくつながるか確認したいという声を聴くがどうか？</p> |
| <委員> (包括) | <p>緊急通報の事業を受託しておりますマグノリア包括では、試しに使っていただくことは可能です。(3年毎のバッテリー交換時ほか随時)。「お元気ですか？」のコールサービスも時々しているので、その際に、試しも可能、とお伝えるのもいいかなと思います。</p> |
| <委員> | <p>【緊急通報システムについて その3】</p> <p>自分が連絡員になっていることを知らない人も多いのではないかな？少なくとも年1回ぐらい生の声で「お世話になっています。」というような連絡が必要ではないかな。</p> |
| <委員> (包括) | <p>ご自身が連絡員であることを認識していないケースがあったので、毎年1回市から連絡員に通知を送っていただいているので、あらためて、包括から連絡員の方へのご挨拶はしていない状況。</p> <p>設置の数が多くなるとある程度手間もかかるので、どうしようかと考えます。</p> |
| <委員> | <p>地域包括支援センターが行う地域ケア会議は、コロナ禍で県外家族も帰省しないので件数が減少しているのでは？</p> |
| <事務局> | <p>必要に応じ困難ケースがあれば民生委員さんや地域の方の協力をいただいで話し合っており、極端に減っている印象はないです。</p> |
| <委員> | <p>【敬老事業について】</p> <p>75歳以上の敬老会はまだ継続するのかな？参加者もせいぜい対象者の2割程度と聞いている。なんかもったいない。交流の場につながっているのかな？</p> |
| <事務局> | <p>同様のご意見は伺っており、庁内でも敬老会のあり方は検討すべき案件となっています。今時点で方向性は定まっておりますが、来年度(令和3年度)には十分に検討いたします。</p> |
| <委員> | <p>【地域のつながりについて】</p> <p>一住民の立場ですが、在宅生活支援については、地域のつながりが重要だと思います。4月には地区公民館がコミュニティセンター化するが、自治公民館が地域の一つの核として住民交流や自治の場になるとよいと思う。</p> <p>生活の中で些細な事(例えば電球のタマ交換)は、近所の人にヘルプしないといけない。人が生きていくには専門の力やいろんな力が必要だが、やっぱり近所の人の方が一番。</p> <p>地元でサロンを開催したり傾聴ボランティアをしている中で感じるのは、地域のつながりをもっと促進するような体制づくり、地域の中のボランティア組織を作るとか、もうちょっと地域の活性化が必要ではないかな、ということです。</p> |

| | |
|-----------------|--|
| <会長> | 確かにそうですね。 全然知らないところで物を申しにくい。顔見知りの中で情報を発信して、いかにそれを拾うか。また誰かにつなぐこともでてくるでしょうし。ありがとうございます。 |
| | ③介護予防の充実 |
| <委員> | 高齢者の健診受診率は年々高くなっていますか。 (事務局から若年層の受診率は伸びているが後期高齢者の受診率は横ばいとの説明あり。) 健診を受けるのも一つの予防。是非、受診率を高めていただきたい。 |
| | ④認知症の共生と予防 |
| <委員> | 認知症サポーター養成は受けっぱなしではなく、その都度その都度勉強しないといけないと思う。そのへんはどう考えておられるか。 |
| <事務局> | 実際にサポーターとして活動していただくところまでのサポートが不足しており何らかの対策が必要と認識しています。 |
| | ⑤権利擁護の充実 |
| <委員> | 市民後見人養成の中には、地域包括ケアシステムの土壌となるような概念が多く含まれているので、これを武器に地域包括ケアシステムを構築できないかと考えます。市民後見人養成は、「私たちが支える側として何ができるか」を考える啓蒙の場として一番いいのではないかな。 |
| <委員> | 虐待の防止につながる養護者（家族介護者）支援の取組み強化として、家族介護者支援に着目した研修会の開催、とあるが、この視点は本当に大事だと思います。 |
| | ⑥高齢者のニーズに適した住まいの確保 |
| | (特段ご意見なし) |
| | ⑦医療と介護の連携推進 |
| <オブザーバー> >包括 | かもがわ包括は市内山間部を担当しているが、訪問看護や往診を依頼しても「ちょっと遠い」「〇分以上かかる往診は難しい」との反応。是非、山間部も対応してもらえる医師や訪問看護の体制が整ってほしい。 |
| | ⑧介護サービスの充実と給付の適正化 |
| <委員> | 福祉の人材が足りない状況が見込まれているので、行政としても支援を考えていただきたい。 |
| <事務局> | 市として現在特別なことは考えていませんが、県などの取組み情報もしっかり把握して連携するところは取り組みたいと考えています。 |
| | 全般 |
| <委員> | 一つ目は、「令和7年の地域包括ケアの姿」の中身と8つの施策の番号に整合性をとっていただきたい。 二つ目は、各施策に共通することとして、重要な部分は文章だけではなく数値で記載していただきたい。これまでの成果や具体的な現状値な |

| | |
|-------|--|
| | ど地域の住民の方にもきちんとわかっていただける書き方が必要。目標値についても、現状を踏まえて明確に記載いただきたい。その後の評価や次の施策につなげるためには必要と思います。 |
| <事務局> | ご指摘いただいた番号の整合性等については、きちんと一致させます。現状値、目標値も可能な限りあげていきたいと思えます。 |
| <委員> | 基本理念について、「住み慣れた地域で豊かに健やかに暮らせる社会をめざして」とあるが、「豊か」には物心両面があるので「心豊かに」がよいのではないか。 |
| <事務局> | みなさんの方でよろしければ、そのような表現に修正したいと思います。 |
| <会長> | みなさんいいですか。では、「心豊かに」に修正させていただきます。 |
| | 第5章 |
| | (事務局より、当日資料4に基づき、第5章の介護保険事業の見込量と介護保険料について説明。以下の質疑応答。) |
| <委員> | 新しい事業所の開設予定があるが、その部分を含んで7期同様の保険料基準額で間に合うという判断ですか？ |
| <事務局> | 費用額の推計には、令和3年開設予定のグループホーム・小規模多機能型居宅介護分の給付費も含んでいます。現在の基金を取り崩しながら運営していくということで、保険料は据え置く計画としております。 |